
フランシス・ベーコンにおけるトリプティックの成立について

——《ある磔刑の足元の人物たちのための三つの習作》(1944)を中心に

尹 志慧 (同志社大学)

フランシス・ベーコン (Francis Bacon, 1909–1992) は 1944 年に完成した《ある磔刑の足元の人物たちのための三つの習作(Three Studies for Figures at the Base of a Crucifixion)》(以下、44 年作と表記)の発表後、本作品を自身の画業の始まりと位置づけており、この位置づけはデイヴィッド・シルヴェスター (David Sylvester) やジョン・ラッセル (John Russell) などの先行研究者によっても肯定されてきた。というのも、44 年作は以後のベーコンの絵画制作における三つの特徴的要素を有しているからである。その要素とは、有機体 (Biomorphic) のイメージ、磔刑というテーマ、そして同じサイズの縦長三枚の絵を横に連ね一つの作品にするトリプティック (Triptych, 三幅対) 形式である。

ベーコンは生涯、28 点の大きいサイズと 40 点の小さいサイズのトリプティック (Triptych, 三幅対) を描いている。44 年作はシルヴェスターとの 1962 年のインタビューの中で《ある磔刑のための三つの習作(Three Studies for a crucifixion)》(1962) (以下、62 年作と表記) と共に磔刑のトリプティックとして取り上げられて以来、ベーコン自身によりトリプティックと呼ばれ、デイヴィッド・ボクサー (David Boxer) やヒュー・デイヴィス (Hugh M. Davies) などの研究者によりベーコン初のトリプティックとして紹介されてきた。

しかし発表者は、44 年作が 1962 年のインタビューまではトリプティックとしてのアイデンティティをもっていなかったと主張する。本主張の検証のため、第一に、三枚が揃うまでの過程を辿ることで、ベーコンにおけるトリプティックという着想は確固たるものではなかったことを確認する。第二に、44 年作が初めて出品されるまでのギャラリー側とのやり取りを確認し、45 年の初出品の際もトリプティックではなかったと立証する。そして第三に、展示履歴の変遷を検討することで、62 年作発表直前の 1959 年サンパウロ・ビエンナーレ出品時までトリプティックではなかったと主張する。これらの検証を踏まえた上、44 年作は 62 年からトリプティックとして扱われ始め、1988 年の《1944 トリプティックの第 2 ヴァージョン (Second Version of Triptych 1944)》の存在により後からトリプティックに定められたと結論付ける。